



蘭学者。陸奥国胆沢郡水沢(現、岩手県奥州市)出身。養父の反対を押し切って江戸(現、東京都)に出て、苦学しながら蘭医・杉田伯元に学び、次いで吉田長淑に学んだ。長淑の死後の文政8(1825)年、長崎に赴きシーボルトの鳴滝塾に入塾、その翌年「ドクトル」の称号を授けられた。しかし、シーボルト事件が起こったため長崎を去り、後に江戸に戻って開業医をしながら生理学を研究し、天保3(1832)年、我が国初の生理学書『医原枢要』を著した。渡辺華山と知り合ったのはこのころである。これ以降、華山の蘭学研究を助けながら、多くの翻訳や著述活動も行うが、『戊戌夢物語』で幕政を批判し、投獄(蚕社の獄)される。後に脱獄し、宇和島藩主・伊達宗城の招きにより、宇和島で蘭学教授のかたわら、兵書の翻訳や御荘砲台の設計などをす。また、この時、幕府の追及から逃れるため、同じシーボルト門下の二宮敬作を宇和郡卯之町(現、西予市)に訪ね、一時潜伏している。

略歴

文化元(1804)年5月5日	陸奥国胆沢郡水沢に生まれる。
文化10(1813)年	母方の伯父・高野玄斎の養子となる。
文政3(1820)年	医学修業のため江戸に出る。
文政8(1825)年	長崎に赴き、シーボルトの鳴滝塾に入門
文政11(1828)年	シーボルト事件発生にともない、長崎から姿を消す。
天保元(1830)年	江戸に戻り、医師として開業
天保3(1832)年	我が国初の生理学書『医原枢要』を著す。 渡辺華山と知り合う。
天保9(1838)年	『戊戌夢物語』を刊行し、幕政を批判する。
天保10(1839)年5月19日	蚕社の獄に連座し、幕政批判の罪により入獄。永牢の刑を受ける。
弘化元(1844)年6月	牢火災に乗じて脱獄し、逃亡
嘉永元(1848)年	宇和島藩主・伊達宗城に請われ、宇和島に入る。
嘉永2(1849)年8月	宇和島を去る。江戸に潜入し、医師として開業
嘉永3(1850)年10月30日	隠れ家を捕縛の役人に襲われ、47歳で自殺 (肖像画(椿椿山筆、国指定重要文化財)：奥州市立高野長英記念館蔵)

〈関連図書〉

- ・高野長運『高野長英傳』 岩波書店 1943年
- ・高野長英『高野長英全集』 第一書房 1978年
- ・渡辺華山・高野長英『華山・長英論集』 岩波書店 1978年
- ・鶴見俊輔『高野長英』 朝日新聞社 1985年
- ・須川力『科学者 高野長英』 岩手出版 1990年
- ・佐藤昌介『高野長英』 岩波書店 1997年
- ・『平成9年企画展 伊予の蘭学』 愛媛県歴史文化博物館 1997年
- ・筑波常治・田代三善『堂々日本人物史 高野長英』 国土社 1999年
- ・鶴見俊輔『評伝高野長英 1804-50』 藤原書店 2007年

〈ゆかりのある場所〉…(P266, 10~11)

〈関連施設〉…奥州市立高野長英記念館

〒023-0857 岩手県奥州市水沢中上野1番9号 TEL: 0197-23-6034

愛媛県歴史文化博物館

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4丁目11番地2 TEL: 0894-62-6222